

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2020年2月10日

**【四半期会計期間】** 第43期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

**【会社名】** 株式会社エイジス

**【英訳名】** AJIS CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 齋藤 昭生

**【本店の所在の場所】** 千葉県千葉市花見川区幕張町四丁目544番4

**【電話番号】** 043(350)0888(代表)

**【事務連絡者氏名】** 財務経理部長 西岡 博之

**【最寄りの連絡場所】** 千葉県千葉市花見川区幕張町四丁目544番4

**【電話番号】** 043(350)0567

**【事務連絡者氏名】** 財務経理部長 西岡 博之

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第3四半期 連結累計期間	第43期 第3四半期 連結累計期間	第42期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	19,381,209	19,962,352	27,669,932
経常利益 (千円)	2,204,162	2,432,558	3,828,776
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	1,477,077	1,636,783	2,634,850
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,479,771	1,622,441	2,619,526
純資産額 (千円)	13,289,467	15,507,285	14,428,444
総資産額 (千円)	16,294,925	18,694,757	18,846,955
1株当たり四半期(当期)純 利益 (円)	169.28	194.69	304.55
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	80.3	81.7	75.4

回次	第42期 第3四半期 連結会計期間	第43期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	31.76	51.02

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が行う事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日）におけるわが国経済は、企業収益の改善が進み、雇用・所得環境は緩やかな回復基調にあるものの、米中貿易摩擦、欧州の不確実な政治情勢などの影響による輸出や生産の落ち込みも懸念され、依然として先行きは不透明な状態が続いております。

当社グループの主要顧客であります流通小売業界におきましても、業種業態の垣根を越えた競争の激化や販売チャネルの多様化、消費税率の引き上げに対する消費者の生活防衛意識の高まりや節約志向は依然として根強く、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような環境のなか、当社グループは、中期経営計画（2017年度～2019年度）の3年目として、計画に基づいて事業を展開し、中長期での安定的な成長を見据え、さらなる事業基盤の強化に注力しました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高19,962百万円（前年同四半期比3.0%増）、営業利益2,384百万円（前年同四半期比9.9%増）、経常利益2,432百万円（前年同四半期比10.4%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益1,636百万円（前年同四半期比10.8%増）となりました。

セグメントごとの業績は、以下の通りであります。

#### 国内棚卸サービス

国内棚卸サービスにおいては、消費税率変更にとまなう棚卸実施月の変更、棚卸日程分散の推進による棚卸実施店舗数の増加により、増収となりました。利益面においても、棚卸日程分散の推進や消費税率変更に伴う棚卸実施月の変更により繁閑格差の是正が進み、棚卸経験者比率が改善したことにより、前期に引き続きカウント作業生産性が大きく向上し、増益となりました。売上高は11,846百万円（前年同四半期比0.2%増）、セグメント利益は2,022百万円（前年同四半期比23.7%増）となりました。

#### リテイルサポートサービス

リテイルサポートサービスにおいては、既存顧客の店舗商品補充業務及び店舗改装業務の受注増加により、前期に引き続き売上増加基調で推移しております。一方で利益面においては、受注体制を整えるべく店舗作業人員数を増員したことや、効率的なオペレーションを実施する体制を構築するための費用の増加により、減益となりました。売上高は6,339百万円（前年同四半期比10.3%増）、セグメント利益は315百万円（前年同四半期比25.6%減）となりました。

#### 海外棚卸サービス

海外棚卸サービスにおいては、米中貿易摩擦による中国経済の景気減速により、既存顧客の棚卸受注店舗数が減少し、減収となりました。利益面においては、売上の減少に加え、中国及び韓国での労働コストの上昇により、減益となりました。売上高は1,775百万円（前年同四半期比2.2%減）、セグメント利益は28百万円（前年同四半期比68.7%減）となりました。

当社グループの売上高の特徴として、国内棚卸サービスの閑散期である第1四半期連結会計期間および第3四半期連結会計期間の売上高は少なく、国内の主要な顧客であります流通小売業界の決算が集中する第2四半期連結会計期間および第4四半期連結会計期間は繁忙期となり売上高が多くなる傾向があります。

財政状態は、以下のとおりであります。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は18,694百万円(前連結会計年度比0.8%減)となりました。これは、主として当第3四半期連結会計期間は国内棚卸サービスの閑散期につき売掛金が減少したことによるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は3,187百万円(前連結会計年度比27.9%減)となりました。これは、主として法人税の納付による未払法人税等の減少および当第3四半期連結会計期間は国内棚卸サービスの閑散期につき未払金が減少したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は15,507百万円(前連結会計年度比7.5%増)となりました。これは、主として配当金の支払いにより利益剰余金が減少したものの親会社株主に帰属する四半期純利益獲得により利益剰余金が増加したことによるものです。

(2)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3)研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は22百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,000,000
計	28,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,771,200	10,771,200	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	10,771,200	10,771,200	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年10月1日～2019年12月31日	-	10,771,200	-	475,000	-	489,480

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である2019年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,362,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,398,200	83,982	-
単元未満株式	普通株式 10,900	-	-
発行済株式総数	10,771,200	-	-
総株主の議決権	-	83,982	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が、400株(議決権4個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式が82株、証券保管振替機構名義の株式が40株含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 割合(%)
(自己保有株式) 株式会社エイジス	千葉県花見川区幕 張町四丁目544番4	2,362,100	-	2,362,100	21.93
計	-	2,362,100	-	2,362,100	21.93

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,152,203	9,653,669
受取手形及び売掛金	3,954,156	2,782,811
貯蔵品	67,810	34,647
その他	273,494	204,878
流動資産合計	13,447,664	12,676,007
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,276,394	1,276,394
その他(純額)	776,577	719,773
有形固定資産合計	2,052,972	1,996,168
無形固定資産		
のれん	151,153	123,596
その他	588,818	725,902
無形固定資産合計	739,971	849,498
投資その他の資産		
投資有価証券	1,966,874	2,563,559
その他	639,472	609,522
投資その他の資産合計	2,606,346	3,173,082
固定資産合計	5,399,291	6,018,749
資産合計	18,846,955	18,694,757
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	84,973	60,000
1年内返済予定の長期借入金	6,179	3,505
未払金	2,363,303	1,880,298
未払法人税等	765,160	210,805
賞与引当金	454,813	220,520
役員賞与引当金	6,647	5,011
その他	665,055	736,685
流動負債合計	4,346,133	3,116,826
固定負債		
長期借入金	11,172	8,538
退職給付に係る負債	2,775	3,878
その他	58,429	58,227
固定負債合計	72,377	70,644
負債合計	4,418,511	3,187,471



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	475,000	475,000
資本剰余金	492,088	498,213
利益剰余金	16,956,370	18,046,805
自己株式	3,746,490	3,740,806
株主資本合計	14,176,968	15,279,211
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	73,514	71,191
為替換算調整勘定	37,699	78,960
その他の包括利益累計額合計	35,814	7,768
非支配株主持分	215,660	235,842
純資産合計	14,428,444	15,507,285
負債純資産合計	18,846,955	18,694,757

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	19,381,209	19,962,352
売上原価	13,806,038	14,175,255
売上総利益	5,575,170	5,787,096
販売費及び一般管理費	3,404,947	3,402,544
営業利益	2,170,222	2,384,552
営業外収益		
受取利息	15,610	16,756
受取配当金	7,539	8,053
受取賃貸料	17,022	16,364
その他	12,340	20,652
営業外収益合計	52,512	61,826
営業外費用		
支払利息	1,550	728
為替差損	7,116	5,195
賃貸費用	8,183	7,852
その他	1,722	44
営業外費用合計	18,572	13,820
経常利益	2,204,162	2,432,558
特別利益		
抱合せ株式消滅差益	-	25,660
投資有価証券売却益	5,299	-
特別利益合計	5,299	25,660
特別損失		
固定資産除却損	2,104	29
特別損失合計	2,104	29
税金等調整前四半期純利益	2,207,358	2,458,189
法人税等	690,204	792,574
四半期純利益	1,517,153	1,665,615
非支配株主に帰属する四半期純利益	40,075	28,831
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,477,077	1,636,783

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	1,517,153	1,665,615
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20,657	2,322
為替換算調整勘定	16,724	40,851
その他の包括利益合計	37,381	43,174
四半期包括利益	1,479,771	1,622,441
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,439,550	1,593,200
非支配株主に係る四半期包括利益	40,220	29,240

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

当社グループの売上高の特徴として、国内棚卸サービスの閑散期である第1四半期連結会計期間および第3四半期連結会計期間の売上高は少なく、国内の主要な顧客であります流通小売業界の決算が集中する第2四半期連結会計期間および第4四半期連結会計期間は繁忙期となり売上高が多くなる傾向があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
減価償却費	276,389千円	264,776千円
のれんの償却額	27,557千円	27,557千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	484,304	55.0	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、2018年11月22日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決定し、当第3四半期連結会計期間に自己株式を取得いたしました。

取得した株式の種類 普通株式

取得した株式の数 400,000株

株式取得価額の総額 1,282,000千円

取得方法 東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)における取得

この結果、単元未満株式の買取りによる増加を含め、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が1,282,549千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が3,746,490千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	546,349	65.0	2019年3月31日	2019年6月26日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	国内棚卸サービス	リテイルサポート サービス	海外棚卸サービス	合計
売上高				
外部顧客への売上高	11,819,258	5,746,178	1,815,772	19,381,209
セグメント間の内部売上 高又は振替高	70,780	67,749	-	138,530
計	11,890,039	5,813,927	1,815,772	19,519,739
セグメント利益	1,634,242	423,382	89,553	2,147,178

2 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	2,147,178
セグメント間取引消去	23,043
四半期連結損益計算書の営業利益	2,170,222

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	国内棚卸サービス	リテイルサポート サービス	海外棚卸サービス	合計
売上高				
外部顧客への売上高	11,846,863	6,339,496	1,775,992	19,962,352
セグメント間の内部売上 高又は振替高	64,329	52,682	-	117,011
計	11,911,193	6,392,178	1,775,992	20,079,364
セグメント利益	2,022,173	315,171	28,064	2,365,408

2 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	2,365,408
セグメント間取引消去	19,143
四半期連結損益計算書の営業利益	2,384,552

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	169.28円	194.69円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,477,077	1,636,783
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	1,477,077	1,636,783
普通株式の期中平均株式数(株)	8,725,462	8,407,125

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月10日

株式会社エイジス  
取締役会 御中

### 三優監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	増田 涼恵	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	井上 道明	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エイジスの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エイジス及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。